

徳島赤十字病院臨床研修プログラム：放射線科

コース責任者：谷 勇人

研修期間：選択科として4週間から

I : 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

画像診断及びインターベンションの適応を理解し、実践を通して放射線科の診療内容を理解し、臨床診療において画像診断の果たし得る役割を理解する。また、日常診療に応用できるようにする。

II : 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral objectives)

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

B. 診察法・検査・手技

- 1) 各種画像検査及びインターベンションの仕組み、適応、安全に施行するための実施手順について理解することができる。
- 2) 各種画像検査に伴う被ばくについて理解し、患者および医療従事者の被ばく低減に配慮することができる。また、患者が最大の受益者となるよう得られた情報を活用することができる。
- 3) 各種画像検査において造影剤を適切に投与し、これらに伴う副作用などに対して適切に対応することができる。
- 4) 依頼された部位だけではなく、指導医または上級医の指導のもと画像全ての情報を引き出すことができる。

III : 学習方法 (LS : Learning Strategy)

1) LS (方略) 1 : On-the-job training

- ・指導医または上級医の指導のもとで、画像診断及びインターベンションにあたる。
- ・CT 及び MRI 検査、核医学検査、超音波検査の立ち会い、検査の適応、安全に検査を実施するための手順、撮影方法を理解する。
- ・正常画像所見を学ぶ。
- ・所見をまとめ、解釈し、診断報告書を自ら作成する。

2) LS (方略) 2 : カンファレンス・勉強会

- ・放射線科内の IVR カンファレンスに参加する。
- ・各種合同カンファレンスに積極的に参加する。
- ・放射線科医師、技師との抄読会に参加する。

3) LS (方略) 3 : 学会・研究会・学術活動

- ・学術講演会や各種の院内研修（医療安全や感染対策など）に積極的に参加し、学会発表や症例報告論文を作成する能力を身に付ける。
- ・画像診断に関連する院外の研究会や学術集会に積極的に参加する。

○週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	放射線治療	核医学	超音波検査	超音波検査	超音波検査
午後	放射線治療	IVR 読影（画像診断）	IVR 読影	IVR 読影	IVR 読影

IV : 学習評価 (EV : Evaluation)

PG-EPOC による総合評価

- 1) 個々の診療記録と退院要約（サマリー）は、定期的に指導医の評価と承認を受ける。
※退院要約（サマリー）は、1週間以内に記載すること。
- 2) ローテイト研修終了時に、PG-EPOC に診療経験にもとづく自己評価を行い、指導医による評価を受ける。
- 3) 診察態度や協調性について看護部及びメディカルスタッフ等による 360 度評価を行う。